



ナチュラル班

清水徹男・水谷正子・山田しのぶ・藤原麻美・池田日向

【研究内容・目的】

河辺林を一事例として、高島の自然と市民がどのように関わり、活かしていくかを考える。

- ▶ 「森林セラピー」の活動から活用法・理念を学ぶ。
- ▶ 子供から大人までが楽しめる環境学習の場のビジョンを示す。

【経 緯】

R6.2.13 渋沢寿一先生との視察

メンバーが河辺林を訪れ、荒れた森林（竹林）の現状を視察。カワウのフン、悪臭、鳴き声などの被害があることを知る。

R6.5.15 河辺林の未来図を作ろう

実際に整備をするには、資金の調達をはじめとする様々な課題があるが、まずはこの河辺林が市民にとって高島の自然を体感できる場所として、どのような活用方法があるかを長期的な視点で検討してみることに決定。

上空から見た河辺林



【活動内容・調査】

▶ 各方面の専門家、担当者へのヒアリング

- ・ たかしま森林セラピー 清水代表
- ・ 琵琶湖博物館 亀田館長
- ・ 河辺生きものの森 創設メンバー 武藤氏
- ・ 高島市役所環境政策課 境参事、堀本主事



▶ 活用方法、理念を学ぶ

「たかしま森林セラピー」



- ・ 高島の自然を活用し長年活動が続けている。
- ・ 森林セラピストのガイドで森林セラピーを体験学習。(R6.6.9)



「河辺いきものの森」

- ・ 荒れた河辺林を整備してできた施設。人々が自然にふれ親しみ、環境学習や体験学習ができる場。
- ・ 創設メンバーの武藤氏より、森の活用方法や理念を学ぶ。

「カワウとの共生」

- ・ 琵琶湖博物館館長亀田氏よりカワウの生態、人との関わりの歴史、環境への影響などの資料提供を受ける。

▶ 実地調査、学習

- ・ 河辺林の2回の実態視察 (R6.2.13/R6.9.4) と協議

【収集した情報・発見】

▶ たかしま森林セラピー

- ・ 2008年森林セラピー基地「びわこ水源の森たかしま」として認定される。
- ・ 認定されたセラピーロードをガイドと共に散策する。
- ・ 森の恵みによるところと身体の癒し健康維持を目的に活動している。
- ・ 高島市には3ヶ所の森林セラピー基地・施設があり、それぞれにセラピーロードが設定されていて、維持管理も行なっている。



▶ カワウと人



高木に営巣するカワウ

- ・ カワウと人との関係は古墳時代にさかのぼる共生関係。かつてはフンや卵を利用していた。
- ・ 現在は生息地が限られ、コロニー近隣は騒音（鳴き声）、フン、悪臭、樹木枯死などの問題が全国で起きている。
- ・ カワウは主に高木に営巣するので、高木を切ると他に移動する。
- ・ コロニー近くでは空中でくわえた魚を落とし、空から魚が降ることもある。

▶ 河辺林

- ・ 約10h弱（東京ドーム約2個分）
- ・ 高木、竹林が多く荒れている。



堰（せき）

【結 論】



▶ 提案

小川を境に東西エリアに分け、住宅地よりの東側を第1期整備エリアとして、カワウのコロニーを住宅から遠ざける。

【今後の展望】

- 専門家による植生調査。
- 周辺住民の再開発やカワウ対策への意識調査。
- 関心を持つ市民、団体、学生などを増やし、再開発のアイデアを広く募る。



イメージ図



イメージ図

【未来予想図】

